

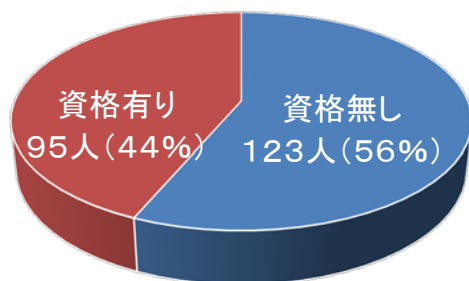
## 計器飛行により期待できる効果

- ▶ 荒天時や急な気象状況の変化時において、飛行継続及び回避行動が可能となる。(飛行の安全性向上)
- ▶ 荒天時や夜間でも、大規模災害発生地域への応援・参集が可能となる。(災害対応における迅速性向上)

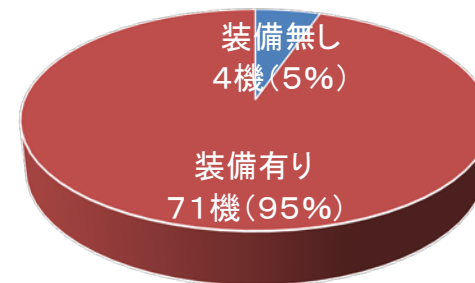
## 消防防災ヘリの計器飛行対応状況

※2017.4 消防庁航空隊データベースより

計器飛行証明資格操縦士



IFR装備機体



- ▶ 内部規程や委託運航の契約内容により、計器飛行可能となるのは**12団体27機**となる。

## 計器飛行証明資格取得等にかかる経費

※2007.3消防庁「ヘリコプターによる被災地情報収集の在り方に関する検討会報告書」より抜粋

取得	学科費用	約200千円(2ヶ月)	
	実地飛行	約18,000千円(600千円×約30時間)	BK117 クラス
		約27,000千円(900千円×約30時間)	AS365 クラス
	試験	約57千円(学科試験+実地試験)	
維持	模擬シミュレーター使用料	約216千円(1時間36千円×6時間※)	※航空法施行規則第161条に基づく資格更新要件